

記念館だより

2020年3月号

新しいできごとに対して

加藤 輝勢子

本所賀川記念館は今年度50周年を迎えました。また1923年の関東大震災からの救援活動が記念館の前史になりますが、まもなく100年を迎えます。その間、戦争をはじめ、大きな自然災害にも見舞われました。身近なところでは東日本大震災や水害、台風15号、19号等がありました。いずれも想定外のことが多く、右往左往することが多くありますが、その都度先達たちが知恵を絞り、困難を乗り越えてきました。

この度は政府が「新型コロナウイルス」の感染拡大を防止するため、3月2日から小中高校及び特別支援学校の臨時休校が実施されました。

記念館学童クラブでは子どもたちの健康と生活を守りながら、子どもと生活の最善の利益を考えて行動したいと思いません。

例えば、マスクが不足され、また、うわさが先行して買い占めをしたり、転売目的で買い占めをする人がいるようですが、自分のことだけいいのではなく、みんなの健康が守られるといいなと思います。

その意味で、自粛を要請されている時期ですが、保護者の就労の事情を踏まえ、記念館

の学童クラブを利用していただき、ご家庭でできることと記念館でできることを協力しながらこの時を乗り越えたいと思います。

私は大変な状況になると、いつも創立者である賀川豊彦だったらこのような時にどのような対応をするだろうかと考えます。

賀川豊彦は関東大震災の折、いち早く一番被害の大きかった本所地区に入り、救援活動を始めました。その時の賀川が書いた日誌があります。

私がしたい仕事は罹災者の困苦を自ら体験し、バラックの苦悩を自らも一緒に味わい、これを科学的に調査して、世間に訴えることである。つまり私は「眼」になりたいと云うことであった。

子どもたちに寄り添い、今何が必要であるかを考え、賀川のような熱い心と冷静な判断をしていきたいと思いません。3月の締めくくりの時、巣立ちの時が急に来た感じですが、一人ひとりとの一日の出会いを大切に過ぎていきたいと思いません。

【学童クラブ】

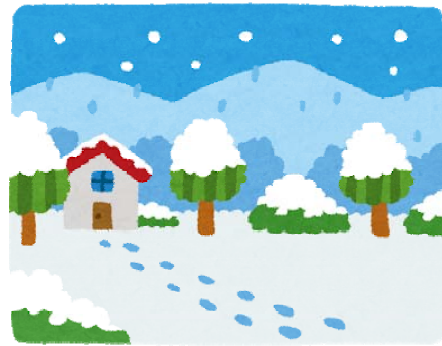
～2月の一コマ～

【農村留学】

今年も大人気！の農村留学。山形県戸沢村に行きました。例年に見ない雪の少なさ、と地元の方々は口を揃えて言っていましたが、子どもたちは雪を見ると目を輝かせていました。雪上かるたで熱が入るほど盛り上がりたり、自分たちで作ったかまくらに入ったり、思い思いに普段体験できないことを楽しんでいました。

たくさん遊んだ後はホームステイ先で過ごす夜です。民宿のご主人はお家に帰ってきたかのような温かさで迎え入れてくださり、美味しいご飯をたくさん食べてお話をし素敵な夜を過ごしました。

(内野)



コスモス会（在宅高齢者の食事について）

コスモス会利用者の方に土曜日以外のお食事について伺うと、コンビニやスーパーの弁当やお惣菜を買う方もおられるようです。作業療法士猪股英輔氏に見せていただいた在宅高齢者の栄養に関する論文によると、「毎日3食・適正なたんぱく質とエネルギーの摂取」が大切だそうです。無理して手作りせずに、レトルトハンバーグやサラダチキン、おでんなどを取り入れるといいようです。 (針谷)

記念館トピック

☆賀川研究会☆

賀川先生について学ぶ会です。どなたでも参加できます。
3月12日（木）19：30～ 本所賀川記念館3階ホール
参考図書「貧民心理の研究」

新型コロナウイルス感染拡大防止により、各館の3月の行事は中止とさせていただきます。

感染拡大防止のために私たちに出来ることは、手洗い・うがいをごまめに行う、マスク着用、早寝・早起きを心がけることです。

一刻も早く鎮静化、そして病に苦しみ今頑張っている方が一日でも早く治ることを祈っております。

